

ニュースレター



NPO法人 家庭的保育全国連絡協議会

11号 2011.7.16

∞ はじめに ∞

NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会理事長 鈴木 道子

梅雨が明けて夏本番！これから暑い毎日が続きますが、子どもたちの元気な声に励まされ、この暑さを乗り切っていきましょう。

皆様、いかがお過ごしでしょうか。お見舞い申し上げます。

さて、今般の東日本大震災では多くの家庭的保育者が被災や避難を経験しておりますが、家庭的保育における国や自治体により具体的に示された安全ガイドラインはまだ策定されておらず、個々の家庭的保育者が安全面を考えて対処している状況です。このたび、独立行政法人福祉医療機構より6月28日付けで助成の内定通知を頂き、家庭的保育を、安全で安心できる保育として位置付けるための本格的なガイドライン策定事業を開始しました。

安全・安心の確保は、子どもにとっても保護者にとっても家庭的保育者にとっても大切なことです。このような大切な事業を本協議会に任せていただけることに責任の重さと、家庭的保育者が中心となる組織だからこそ任せていただけたとの誇りを感じております。

加えて、7月7日付けで厚生労働省より、研修の後援名義の使用を許可するというお知らせを頂きました。これは、当協議会の研修を受ける方が年々増加していること、充実した研修内容が認められた事によるものと思います。今後当協議会の研修会は、後援：厚生労働省としていろいろなところで皆様のお目にとまるかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。また、私達が毎日、園長、主任、保育者、看護師、雑務など、その何もかも役割を担う状況であるということ、一人で実施する事の困難さ、安全・安心で豊かな保育の実践には保育補助者と共に行う保育は欠かせないとの願いがようやく理解され、今年度から補助者雇用費が（時間数は限られていますが）、子ども1人の場合も国庫補助の対象となりました。

このように皆様のご理解とご支援をいただきながら、今年度は「安全・安心な家庭的保育」をテーマに、家庭的保育の普及につなげられるような取り組みを進めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

☆目次

1P	はじめに	7P	我が家の保育⑥
2P	第四回通常総会報告	8P	おすすめ絵本⑥
3P~4P	セミナー・シンポジウム報告	9~10P	事務局よりお知らせ
5P	家庭的保育の研修報告		※会員証・会員募集・現任研修・テキスト改訂版・ 合研案内・義援金報告・エプロン案内等
6P	安全ガイドライン策定事業・厚生省懇談会		

■ 第4回通常総会開催 ■

第4回通常総会を、5月29日(日)午後1時より、東京しごとセンターにおいて開催いたしました。定款の規定通り、有効出席者数が正会員の過半数に達しましたので適法に成立いたしました。

〈審議事項〉	第1号議案	平成22年度事業報告
	第2号議案	平成22年度会計収支報告 (社会福祉振興助成事業報告)
	第3号議案	平成23年度事業計画案
	第4号議案	平成23年度収支予算案
	第5号議案	任期満了に伴う役員改選の件

上記5項目を審議した結果、第3号議案「平成23年度事業計画案」について、『事務局から説明のあった申請中の助成事業を計画案の中に載せていないが申請中ではあっても計画案として含めた方がよい。』との意見があり、その通り承認、可決いたしました。ほかの議案についてもすべて承認、可決いたしました。

正会員の皆さまにはご多用中のところ、出席いただきご協力ありがとうございました。平成23年度は引き続き「家庭的保育の普及啓発」「家庭的保育の質の向上」を事業実施の方針としながら、特に「安全で安心な保育環境の整備」を重点的に活動してまいります。会員も年々増え、会員が所属する自治体も全国的になってきました。家庭的保育の形態も自治体の取り組み方でいろいろ異なるものが生まれてきています。

当協議会が家庭的保育のネットワークとして、広く、しっかりとした組織となるように、今後とも会員の皆様をはじめ、ご支援いただきます多くの方の参加、協力によって活動をしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

事務局 水嶋 昌子

平成23年度家庭的保育全国連絡協議会セミナー 大切にしよう！かけがえのないのち —家庭的保育の安全・安心な保育環境を考える—

総会終了後、14:00 からセミナーが開催されました。台風にもかかわらず、出席は81名、家庭的保育者・行政・研究者・家庭的保育支援者・マスコミ関係など、全国各地からご参加頂きました。東日本大震災があり『安全・安心な保育環境を考える』というテーマは切実で、会場からも心に残る真剣な発言が続きました。

■ 基調講演 “元気な子どもたちとともに” 聖路加国際病院小児科医長 草川 功氏

震災直後に被災地医療に従事された体験にも触れながら、子どもの健康とはどういうことか(ポジティブ・集中力持続・運動しやすい・機嫌が良いなど)、また、子どもの健康を守るためには子どもをよく知ることが重要であると説明されました。また、事故が起こる要因を整理したうえで、対象となる子どもをよく知る、予防策を考える、いざというときの対応を考えておく、これらを小回りのきく家庭的保育の利点を生かして実践することが大切と、豊富な臨床経験からの説得力のあるお話をいただきました。

参加者からは、①医学的な面からの説明が判り易く勉強になった②免疫力や抵抗力などを、改めて理解できた③発育状況をよく知ることが、重要だと判った④命を預かる重みと責任を実感した～などの感想が寄せられました。

■シンポジウム “大切にしよう！かけがえのないのち” —家庭的保育の安全・安心な保育環境を考える—

関東学院大学准教授 澁谷昌史氏のコーディネーターの元、4人のシンポジストをお迎えして行われました。

名古屋市指定家庭的保育者 藤野久恵氏からは、保育室など環境整備の留意点の他、行政の指導により、受託時乳幼児突然死症候群の説明をしていること、また横浜市家庭保育福祉員 南沢明美氏からは年間避難訓練計画の紹介に加え、日頃の避難訓練の様子や3月11日当日の南沢氏の対応と子どもたちの様子についての報告がありました。

続いて、神奈川県次世代育成課副課長(現在課長)井上従子氏からは、行政の安全・安心な保育環境への考え方や、神奈川県が今年度計画している行政指導指針と現場指導指針作成などについて話題提供がありました。

最後に、毎日新聞生活報道部記者 山崎友記子氏は、取材を通じて知った、大震災時の保育所の対応、家庭的保育の良さと安全性などについて話されました。

会場からも、シビアな現実を直視する発言が次々とあり、今年度取り組む安全ガイドラインの策定に向けて、さまざまな課題があげられ、充実したシンポジウムになりました。

〈高槻〉

◆セミナー参加の感想①

町田市家庭的保育者 佐藤 八重子

私は、町田市の募集を受け、5月から家庭的保育者として保育室を開設いたしました。保育園勤務などを経て、乳幼児の時期の大切さを改めて実感し、まだ余力のあるうちにも思っていた決断でした。

でも世の中がなんとなく殺伐として来て、子どもたちの気持ちが置き去りにされているような気がしてなりません。保育園保育とどちらが良い、悪いでなく、家庭的保育のあり方が、これからもっと必要になってくるように思います。

セミナーでは改めて子どもの命を守る事を考えさせられました。保育園はほかの職員もいます。家庭的保育の場合、ひとりで見ている時に、と考えると体が硬くなります。

でも、「子どもの命を守る」、どんな時も、自分の意識の中で外してはならない事だと、気持ちを新たにしました。

参加されている方の中に、行政の方が、自らの意思で参加されているのが、印象に深く残りました。行政と切り離せない仕事です。こうした行政の方の意識は大きいですし、共にやっていく意味でも、とても元気づけられました。マスコミ関係者の方など、当事者でない方の参加は、また、違う目線で考えさせられ、参考になりました。

まだまだ駆け出したばかりです。少しずつこうした機会を得ながら、自分の中身も深めていきたいと思いました。

◆感想②

川崎市家庭保育福祉員 寺澤 佳子

今年度より川崎市で共同型保育室を開室し、試行錯誤の日々を送っている時にタイムリーな内容の講演、シンポジウムに参加することができ、有意義な時を過ごすことができました。

家庭的保育全国連絡協議会の皆さんと共に学び、答えを出す場ではなく、思いを伝え合うスタート地点になるセミナーでした。

いろいろな立場の方々のお話を聞いたことも、とてもよかったです。研修を終え、改めて『子どもの最善の利益』を優先することを実感いたしました。

◆感想③

秦野市家庭保育福祉員 後藤 亜希子

私は家庭保育福祉員としてスタートしてから、ほんの2ヶ月しかたっておらず、この時点で早くも家庭的保育の理想と現実には不安を抱いていました。ですから、このセミナーへの参加は、今の私にとって、とても必要だと感じながらも、どこかで怖さみたいなものを持っていました。けれども会場は役員の皆様の明るく元気な笑い声やイキイキとした表情にあふれ、それだけで心がほっと和らぎました。鈴木道子理事長のお話や草川功先生のご講演では、保育環境の整備や質の良い保育について、私たち保育者にとって大切な現場のあり方や姿勢を学びました。シンポジウムでは普段聞くことのできない様々な分野での声や、お二人それぞれの保育者さんのお話も伺え、こうした行政、メディア、保育者との関係がより深まり、更に支え合い協力していくことが必要なのだと感じました。

交流会では日本全国で活躍されている先輩方に沢山のパワーを頂き、帰りは晴れやかな気持ちで「頑張るぞ」と笑える自分へと変わっていました。

これからも常に学べる自分でありたい、そしてかけがえのない命を安全で安心な環境で保育できるよう知識と技術を磨いていきたいです。

◆感想④

練馬区家庭福祉員 矢部 久美子

協議会のセミナーには、一年振りの参加。共に活動していた仲間にも、再会することが出来て、とてもよい刺激となりました。

基調講演「元気な子どもたちとともに」の草川先生のお話では、小児科医の立場から、「いのちの大切さ」を学ばせていただきました。

シンポジウムでは、家庭的保育に対して、行政の理解と支援が得られるようになったことを実感し、家庭的保育者からの「子どもたちが安心して過ごせる場所と関係を！」「子どもの気持ちを受け止め、また保護者に寄り添った保育を！」に共感致しました。

今後も、私たち一人一人がスキルアップをして、家庭的保育の素晴らしさを広めていかなければ・・・と考えた一日でした。

◎アンケート報告◎

台風の余波で風雨が強く、帰宅を急がれた方が多いため、回収は38枚でした。

〈1〉今回のセミナーについては

①良かった 21名 ②大変良かった 13名 ③普通 3名 ④物足りない 1名

〈2〉基調講演については

①医学的説明が判りやすく、とても勉強になった 8名

②子どもの免疫力、抵抗力の移行が、良く理解できた 3名

③発育状況を良く知ることが重要だと判り、面接時の参考にもなった 2名

〈3〉シンポジウムについては

①命を預かる責任の重い仕事で、スキルアップや環境整備の重要性を感じた 7名
保育者や行政・マスコミの方など、多方面の方の話が聞けて良かった 7名

②保育者の安全対策/保育室の工夫は、参考になった 3名

行政の話はとても参考になった。事故があった時の行政の考え方がわかった

安全面の重要性を、行政にも伝えていきたい 3名

※などでした。命をお預かりする責任の重さを改めて実感し、緊張感をもって保育したいという思いが共通でした。今後ともこのテーマについて検討協議し、安全ガイドラインの策定に反映していければと思います。 (高槻)

家庭的保育の研修を行っています！

ホームページでご案内中！ <http://www.familyhoiku.org/training/>

現任研修

昨年度よりほぼ月一回のペースで現任研修を行っており、昨年度は延べ600名の参加がありました。関東での開催ですので、東京都、神奈川県の方の参加が多いのですが、遠方から飛行機や新幹線を使って参加してくださる方が回を追うごとに増えています。また、参加者は保育補助者の方、家庭的保育支援者、行政担当者の他、研修テーマに関心を持たれた保育所職員の方や学生に広がっています。

現任研修では、「家庭的保育の質の向上」、「専門的学びの共有化」、「保育者同士の学びあいを大切に」をミッションとしています。とくに、さまざまな地域の家庭的保育者が集まり、それぞれの保育者の保育への取り組み、考え方、創意工夫を語り合う時間を多くとっていることが特徴で、講師の話聞くだけでなく、保育者同士が話し合い、学びあうことを大切にしています。初めて会話するメンバーが多い中でも、「家庭的保育」という共通項が一気に距離を近づけて、活発な意見交換が行われています。

6月には「家庭的保育の運営管理—複数保育（保育補助者・共同保育）を考える—」と題した講座を行いました。保育補助者とともに複数で行う保育が広がり、それは家庭的保育の「安心・安全」につながっていますが、同時に保育に関する価値観が異なる保育者が一緒に保育を行うことの難しさを耳にすることが増えていました。そこで、このことをテーマとした研修を、上村康子先生（前天理大学准教授）にお願いしました。

各グループからの報告によると、保育補助者の存在への感謝の気持ちを確認し合い、その上で「保育観の違いをどう克服するか」が話しあわれたようです。「コミュニケーションを大切にする」、「補助者が意見を言える場を作る」というような方法とともに、「1人1人の違いはあって当たり前」ということを踏まえ、「私の保育ではなくて、子どもたちのための保育であることを確認する」などの意見が出されました。終了後には、他の保育者の語る言葉に、隠されていた自分の気持ちを発見したり、あるいは自分の気持ちを他の保育者に共感してもらえたことが嬉しかったという感想が寄せられました。そして、上村先生の講義の中の「説得ではなくて納得してもらうことが必要」という言葉が多く参加者の心に残ったようです。

基礎研修その他への講師派遣

家庭的保育事業を導入する市町村が少しずつですが増えています。研修事業部では必要な科目への講師派遣や研修受託のご相談に対応しています。お気軽にお問い合わせ下さい。本協会の行う研修は厚生労働省並びに日本子ども家庭総合研究所が後援をしてくださり、同研究所の「家庭的保育のあり方に関する調査研究」の研究メンバーが中心となって講師を務めています。

研修事業部 尾木まり メール：kenshu@familyhoiku.org

■第4回通常総会開催■

第4回通常総会を、5月29日(日)午後1時より、東京しごとセンターにおいて開催いたしました。定款の規定通り、有効出席者数が正会員の過半数に達しましたので適法に成立いたしました。

〈審議事項〉	第1号議案	平成22年度事業報告
	第2号議案	平成22年度会計収支報告 (社会福祉振興助成事業報告)
	第3号議案	平成23年度事業計画案
	第4号議案	平成23年度収支予算案
	第5号議案	任期満了に伴う役員改選の件

上記5項目を審議した結果、第3号議案「平成23年度事業計画案」について、『事務局から説明のあった申請中の助成事業を計画案の中に載せていないが申請中ではあっても計画案として含めた方がよい。』との意見があり、その通り承認、可決いたしました。ほかの議案についてもすべて承認、可決いたしました。

正会員の皆さまにはご多用中のところ、出席いただきご協力ありがとうございました。平成23年度は引き続き「家庭的保育の普及啓発」「家庭的保育の質の向上」を事業実施の方針としながら、特に「安全で安心な保育環境の整備」を重点的に活動してまいります。会員も年々増え、会員が所属する自治体も全国的になってきました。家庭的保育の形態も自治体の取り組み方でいろいろ異なるものが生まれてきています。

当協議会が家庭的保育のネットワークとして、広く、しっかりとした組織となるように、今後とも会員の皆様をはじめ、ご支援いただきます多くの方の参加、協力によって活動をしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

事務局 水嶋 昌子

平成23年度家庭的保育全国連絡協議会セミナー 大切にしよう！かけがえのないのち —家庭的保育の安全・安心な保育環境を考える—

総会終了後、14:00 からセミナーが開催されました。台風にもかかわらず、出席は81名、家庭的保育者・行政・研究者・家庭的保育支援者・マスコミ関係など、全国各地からご参加頂きました。東日本大震災があり『安全・安心な保育環境を考える』というテーマは切実で、会場からも心に残る真剣な発言が続きました。

■基調講演 “元気な子どもたちとともに” 聖路加国際病院小児科医長 草川 功氏

震災直後に被災地医療に従事された体験にも触れながら、子どもの健康とはどういうことか(ポジティブ・集中力持続・運動しやすい・機嫌が良いなど)、また、子どもの健康を守るためには子どもをよく知ることが重要であると説明されました。また、事故が起こる要因を整理したうえで、対象となる子どもをよく知る、予防策を考える、いざというときの対応を考えておく、これらを小回りのきく家庭的保育の利点を生かして実践することが大切と、豊富な臨床経験からの説得力のあるお話をしていただきました。

参加者からは、①医学的な面からの説明が判り易く勉強になった②免疫力や抵抗力などを、改めて理解できた③発育状況をよく知ることが、重要だと判った④命を預かる重みと責任を実感した～などの感想が寄せられました。

◆地域とのかかわりの中で◆

京都屋間里親 藤本乳児保育室 藤本 敏子

☆商店街のなかで育つ子どもたち

私の保育室は、洛中に位置し、朱雀二条商店街の中にあります。一階二階を保育室とし、三階を居宅として使用しています。商店街の中ですから、時々配送のトラックや買い物のお客さんの車などが通る道に面しています。店先には常に店のご主人がいて、子どもたちの散歩の行き帰りには、あちこちから声を掛けて下さいます。

ある時、散歩帰りに、ちょっと離れて、フラリフラリとお友だちより遅れて歩いている子どもをみつけたおじさんが、筥が沢山入っていた籠にその子をひょいに入れて相手になってくれました。ちょっとした関わりをしてもらったお蔭で気持ちを切り替え、さっさと保育室へ帰ってくることができました。

時には、二歳児たちは、籠を下げて買い物に行くこともあります。「今日の魚は、どれがいい？」『〇〇でいいよ』などと会話しながら、魚を籠に入れてもらっています。

また、お迎えに来た親たちは、「〇〇ちゃんは、こんなことしはるようになったんやね」と商店街のおばちゃんに声をかけてもらい、仕事疲れも忘れたような笑顔で、話し込んでいます。

☆商店街行事にも参加しています

このように、日頃お世話になっているので、商店街の夏祭りが開催される時には、保育室のガレージを開放することにしてしています。地域の子どもたちも参加してもらえるような、紙芝居や大型絵本の読み聞かせコーナーとなっています。保育室の職員もお手伝いしています。

また、保育室のクリスマス会には、隣組に手作りのクッキーを配っていますが、94歳のおばあちゃんが、いつも楽しみに待っていて下さいます。

このように、親と子だけの生活や保育室だけの生活ではなく、子どもたちは、保育室を通して、地域の一員として毎日を過ごしています。

そんな中で、子どもたちはいろんな力を身に付けていて、思いがけない場面に出会っても、それぞれの力を十分に発揮できるよう、育っているように思います。

☆京都市屋間里親制度

昭和25年に発足したこの制度は、京都市独自の事業で、昨年60周年を迎えました。委託定員数は、370名。平成23年5月現在、一か所5名から15名まで、327名が保育されています。保護者の就労や病気など、受託条件は保育所と同じで、各区1~6名の里親が受託し、日々保育しています。里親はそれぞれの家屋様式の違い等を活かしながら家庭を開放し、複数の保育士(保育協力者)と共に保育しています。

少人数・異年齢(0歳~2歳・地域によっては就学前まで)の子どもたちが、ちょっと子沢山の家庭のように、育ちあっています。(京都市ホームページ等も参照)

☆時は経ても変わらぬ人気絵本

武蔵野市家庭福祉員

立澤朱美

★お気に入りはいつも一緒！

家庭福祉員として子ども達と関わり始めて9年が経ちました。しかし、年月が経過しても、子ども達が入れ替わっても、人気絵本はいつも一緒！定番のロングセラーがあるのです。我が家では、お昼寝前やお迎え前の時間が絵本タイムなのですが、子ども達が自由に絵本を選ぶ事もあります。たくさんの絵本を並べておいても、「読んで〜！」と差し出す絵本はいつも決まっているのです。お気に入りの絵本がいつの代も一緒・・・子ども達の心をつかむ何かがあるのですね〜。

★一番人気は『いないいないばあ』

さて、ここで皆さんにはお馴染みの絵本ばかりですが、我が家の子ども達が選ぶ大好きな絵本をご紹介します！月齢を問わず1番人気なのは、『いないいないばあ』作者によってバージョンも様々ですが、松谷みよこ（童心社）・スギヤマカナヨ（ベネッセ）・いもとようこ（講談社）が置いてあります。どの子も皆、笑顔になれる1冊です。また、なりきりえほん『おめん』（ポプラ社）も『いないいないばあ』の流れで選ぶ人気の絵本です。ぶた・パンダ・りんごなどの顔の目の部分がくりぬいてあり、お面に見立てているのですが、子ども達は絵を自分側に向けるので、表にはそれらの顔が見えないのです。そこに気づくのはいつかな〜と、成長の一步を待つのもまた楽しみのひとつなのです。

★乗物絵本も大好き！

我が家は中央線沿線なので、お散歩がてら電車を見に行く事があります。子ども達は皆、乗り物が大好きですね！『がたんごとんがたんごとん』安西水丸（福音館）も毎回のようリクエストします。“がたんごとん・・・”と、リズム感のある響きが始まると“のせてくださ〜い！”と、子ども達が声を揃えて参加します。何度も読み聞かせているので、本文を暗記してしまうのですが、なぜか決まって“のせてくださ〜い！”の所だけなのです。自然と役割分担が出来てしまうのも面白いです。他には、なかのひろたか（福音館）の『ぞうくんのさんぼ』・『ぞうくんのあめふりさんぼ』・『ぞうくんのおおかぜさんぼ』も大人気シリーズです！ぞうくんがお友達を背中に乗せ重くて池にひっくり返るシーンでは毎回「わっ〜！」と大きな声と大きなお口を開けて驚いた表情を見せてくれます。絵本の中に引き込まれるのですね。その表情がホントに可愛いです。

★人気絵本はパネルシアターに！

これらの人気絵本！子ども達がもっと喜ぶ顔が見たくて、パネルシアターを手作りしちゃいました♪大きなパネルにお馴染みのキャラクター達！もちろん子ども達にも参加してもらいます。なかにはセリフまで言ってくれる子もいます。いつもの絵本が目の前に飛び出した感があって、皆、瞳をキラキラと輝かせ、それはすばらしい集中力で見入っています！パネルシアターは月1回のお楽しみ会に登場します。子ども達が大好きな1冊をこうした形で新たな角度から楽しむのもいいものかな〜と思い、子ども達の喜ぶ顔を励みに、今後もひとつひとつ増やしていけたらなと思っています。

★その他のお気に入り絵本★

- ・くだもの 平山和子さく（福音館）
- ・みつけた LaZoo（教育画劇）
- ・BABY TOUCHシリーズ どうぶつ ジャスティン・スミスさく（主婦の友社）

■事務局からのお知らせ・お願い

☆「会員募集中！」

今年度も引き続き「家庭的保育の普及啓発」「家庭的保育の質の向上」を目的とし、特に「安全で安心のある保育環境」を一年を通して活動していきます。いろいろな地域から、いろいろな意見をもとに活動ができるよう一人でも多くの方に会員となっていただき、参加、協力をお願いします。入会はいつでもOK！

「お待ちしております！！」

○継続手続きがまだの方

口座番号は前回資料に掲載いたしましたが不明な場合はご連絡ください。

○支援くださっている皆様

いつも温かく見守っていただきお礼申し上げます。

是非 賛助会員となってご協力いただきたくお願いいたします。

会員種別	年会費	総会議決権	ニュースレター	団体保険	メール情報配信
正会員（個人）	6,000 円	有	○	自治体認定者	○
準会員（個人）	4,000 円	無	○	加入不可	○
準会員（団体）	5,000 円	無	○	加入不可	○
賛助会員	（一年一口） 2,000 円	無	○	加入不可	○

◎入会金はありません。 ◎準会員（団体）とは、30 人以上の団体です。

◎賛助会員とは、当協議会の活動に賛同してご支援下さる会員です。

☆「現任研修のご案内」

今年も国の示したガイドラインに基づき現任研修を実施しています。講座 1・2 がすでに終了し、家庭的保育者、家庭的保育に関わる方や関心のある方など多くの参加がありました。各分野の専門の講師から学び、参加者同士が交わり合っ、家庭的保育を高めていきましょう！申し込みはホームページをご覧ください。ホームページにも詳しい説明が掲載されています。

☆家庭的保育基礎研修テキストの改訂版を発行

「家庭的保育の基本と実践」改訂版 発行されました！

法定化して一年、家庭保育事業が拡がりつつあります。それにともない、家庭的保育基礎研修テキスト「家庭的保育の基本と実践」の改訂版が発行されました。改訂の主な内容は、栄養などの基準が更新されたり、国の通知やガイドラインが資料に含まれたところなどです。すでに持っている方は買い直す必要はありませんが、ご覧になってくださいね！お友だちやまだお持ちでない方、多くの方にご紹介してください。詳しくはホームページで！！

報告 厚生労働省保育課との懇談会

平成 23 年 5 月 17 日の夕刻、本協議会から 8 名の理事が参加して、厚生労働省保育課の皆様（4 名）と懇談会を持たせていただきました。
こちらからは家庭的保育者の現状やいくつかの自治体の取り組みをお話し、家庭的保育の普及啓発や専門性などについて意見交換をさせていただきました。
家庭的保育への温かいご理解に感謝して、帰ってまいりました。

管谷章世

報告 「東日本大震災」義援金について

総会にて皆様のご承認を頂きました「東日本大震災」の義援金は、6 月 30 日現在の会員数（正会員 214 名・準会員 4 名・賛助会員 9 名）で金額を決定させていただきました。
会費合計 1,318,000 円の 3%を寄付する事になりましたので、39,540 円。当日参加された皆様からも温かいお気持ちのご寄付が 34,261 円ありましたので、**合計 73,801 円**。
一日でも早い復興を願いつつ、日本赤十字社を通じて被災された方々へお送りしました。
紙面を借りましてご報告致します。

会計担当 福島泰子

★オリジナルロゴ入りエプロン追加注文のご案内

昨年は当協議会の普及啓発活動としてオリジナルロゴ入りエプロンを作成し、2010 年度の正会員・準会員の皆様には配布させていただきました。今年度も普及啓発のためにエプロンの販売をしております。補助者の方とお揃いのエプロンを使用するなど、日常の保育の他、保育イベントの際にも是非ご活用ください。

- 色 : レッド・ベージュ（ブラックは売り切れしました）
- 価格 : 1 枚 1,500 円（送料別）
- FAX またはメールにてご注文ください。 エプロン担当 松岡かよ子

★NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会へのご連絡・発注などは下記へお願い致します！

FAX : 045-489-6115

メール : info@familyhoiku.org

☆編集後記

- * 東日本大震災で被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。
宮城の保育者の方が、電話で絶句されたことが、深い痛みとなって、いまも心に残っています。笑顔で保育出来る日常をお祈りしたいと思います。
- * 台風のなか、5 月 29 日のセミナーにご参加頂き、ありがとうございました。
保育現場からの痛切なご意見も多く聞かれましたが、子どもたちの笑顔が、保育の原点だと思います。安全・安心な保育環境を整備し、今後とも笑顔を守る活動を、継続したいと思います。
- * 今回、ニュースレター 11 号発行にご尽力頂いた皆様に、感謝申し上げます（高槻）

☆10P 事務局便り②
